(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第5619490号
(P5619490)
(45)発行日　平成26年11月5日(2014.11.5)　(24)登録日　平成26年9月26日(2014.9.26)

(51)Int.Cl.　F I
B65D 5/50 (2006.01)　B65D 5/50 A

請求項の数 3　(全 10 頁)

(21)出願番号　特願2010-147725(P2010-147725)
(22)出願日　平成22年6月29日(2010.6.29)
(65)公開番号　特開2012-12026(P2012-12026A)
(43)公開日　平成24年1月19日(2012.1.19)
審査請求日　平成25年6月7日(2013.6.7)

(73)特許権者　391019500
朝日印刷株式会社
富山県富山市大手町三番九号
(74)代理人　100095430
弁理士　廣澤　勲
(72)発明者　渡辺　信介
富山県富山市大手町３番９号　朝日印刷株式会社内

審査官　長谷川　一郎

最終頁に続く

(54)【発明の名称】緩衝仕切り付包装用箱

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
一枚のブランクシートから一体的に打ち抜かれた箱体形成片から成り、前記箱体形成片を組み立てた状態で、矩形の外箱体を形成して成る緩衝仕切り付包装用箱において、
前記箱体形成片の各面の連接方向の端部に、底部形成板及び保持部形成板から成る緩衝用仕切り部が連接され、
前記底部形成板には、前記連接方向に延設されその境界を第一折罫線で区切られた連結部と、前記連結部の前記連接方向の端部から前記連接方向に延設された第一支持部と、前記第一支持部の一方の端部であって前記外箱体の上蓋側から前記連接方向と直角に延設され、前記第一支持部との境界が第二折罫線で区切られた底部と、前記底部の前記上蓋側の端部から前記連接方向と直角に延設され、前記底部との境界が自身の幅よりも短い第三折罫線で区切られた第一仕切部とが設けられ、
前記保持部形成板には、前記第一支持部の前記連接方向の端部から前記連接方向に延設され、前記第一支持部との境界が第四折罫線で区切られた第二支持部と、前記第二支持部の前記上蓋側の端部から前記連接方向と直角に延設され、内側領域に収容物の胴部が挿通される透孔が形成され、前記第二支持部との境界が第五折罫線で区切られた保持部と、前記保持部の前記上蓋側の端部から前記連接方向と直角に延設され、前記保持部との境界が前記第六折罫線で区切られ、前記第一仕切部の端部から連続し、その境界が前記第四折罫線の延長線上にある第七折罫線で区切られた第二仕切部とが設けられ、
前記外箱体を組み立てた状態で、前記第四及び第七折罫線が正折りされ、前記外箱体内

に前記緩衝用仕切り部が折り畳み可能に設けられ、
前記第二折罫線を逆折りし第三折罫線を正折りすることによって、前記第一支持部と前記脚部とで支持された前記底部が、前記底蓋の上方に隙間を空けて対面し、前記第五折罫線を正折りし第六折罫線を逆折りすることによって、前記保持部が前記底部の上方に隙間を空けて対面することを特徴とする緩衝仕切り付包装用箱。
【請求項２】
前記外箱体を組み立てた状態で、前記第二仕切部の裏面が前記第一仕切部の裏面に糊付され、前記第二支持部の裏面が前記第一支持部又は前記連結部の裏面に糊付けされ、前記第一折罫線が正折りされ、前記第二支持部の表面が前記正面板の裏面に糊付されて、前記外箱体の内側に前記緩衝用仕切り部が折り畳まれて位置する請求項１記載の緩衝仕切り付包装用箱。
【請求項３】
前記底部形成板には、前記第一仕切部の他方の端部であって前記外箱体の底蓋側から前記連接方向と直角に延設された脚部が設けられ、前記緩衝用仕切り部は、折り畳み状態から収容物を収容可能に開いた状態で、前記外箱体の側面との間に説明書を収容可能な隙間を形成可能に設けられている請求項１記載の緩衝仕切り付包装用箱。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、外側筒状体の内側に緩衝用仕切りが一体に設けられ、筒状の瓶などの収容物を保護する緩衝仕切り付包装用箱に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来から、化粧水や薬液、清涼飲料等を瓶に入れた商品は、紙製等の包装箱に収容され、運搬、保管、陳列がされているものがある。このような包装箱は、収容した瓶などを保護し、中でがたつかないように、包装箱内を仕切る緩衝用の仕切り片が設けられている。
【０００３】
例えば、特許文献１に開示されているように、瓶などの収容物を収容する包装箱であって、箱体形成片に展開した状態で、４つの周壁が周壁折目で区切られて連接され、その連接方向の両側端辺に収容物の胴部及び底部を支承するためのＵ字状の連結支承片が縦折目で区切って設けられた包装箱がある。この包装箱は、組み立てた状態で、周壁折目を折り曲げ周壁で矩形の筒状体を構成し、連結支承片が縦折目で折り曲げられ筒状体の内側の対角線の位置で重ねて接着され、収容物の側面と底面を連結支承片のＵ字の内側で保持するものである。また、収容物の側面を４方向から保持するため、別部材であるＵ字状の補助支承片を用意し、上記連結支承片と交差するように係合させ、筒状体のもう一方の対角線の位置に配置する構成も開示されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開平１０－３１６１３２号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
特許文献１の包装箱の場合、ブランクシートから打ち抜かれた１枚の箱体形成片から構成しようとすると、上記のように、収容物の側面を２方向からしか保持できず、連結支承片が配置されていない方向に衝撃が加わると、収容物を保護することができない。また、４方向から保持する場合は、別部材であるＵ字状の補助支承片を用意しなければならず、組み立てが面倒であるとともに、部品数が増えることから部材管理の面でも煩雑である。
【０００６】

この発明は、上記背景技術に鑑みて成されたもので、外部から加わる衝撃の向きによらず収容物を緩衝的に保護することができ、組み立てが容易な緩衝仕切り付包装用箱を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

本発明は、一枚のブランクシートから一体的に打ち抜かれた箱体形成片から成り、前記箱体形成片を組み立てた状態で、矩形の外箱体を形成して成る緩衝仕切り付包装用箱であって、前記箱体形成片の各面の連接方向の端部に、底部形成板及び保持部形成板から成る緩衝用仕切り部が連接され、前記底部形成板には、前記連接方向に延設されその境界を第一折罫線で区切られた連結部と、前記連結部の前記連接方向の端部から前記連接方向に延設された第一支持部と、前記第一支持部の一方の端部であって前記外箱体の上蓋側から前記連接方向と直角に延設され、前記第一支持部との境界が第二折罫線で区切られた底部と、前記底部の前記上蓋側の端部から前記連接方向と直角に延設され、前記底部との境界が自身の幅よりも短い第三折罫線で区切られた第一仕切部とが設けられ、前記保持部形成板には、前記第一支持部の前記連接方向の端部から前記連接方向に延設され、前記第一支持部との境界が第四折罫線で区切られた第二支持部と、前記第二支持部の前記上蓋側の端部から前記連接方向と直角に延設され、内側領域に収容物の胴部が挿通される透孔が形成され、前記第二支持部との境界が第五折罫線で区切られた保持部と、前記保持部の前記上蓋側の端部から前記連接方向と直角に延設され、前記保持部との境界が前記第六折罫線で区切られ、前記第一仕切部の端部から連続し、その境界が前記第四折罫線の延長線上にある第七折罫線で区切られた第二仕切部とが設けられ、前記外箱体を組み立てた状態で、前記第四及び第七折罫線が正折りされ、前記外箱体内に前記緩衝用仕切り部が折り畳み可能に設けられ、前記第二折罫線を逆折りし第三折罫線を正折りすることによって、前記第一支持部と前記脚部とで支持された前記底部が、前記底蓋の上方に隙間を空けて対面し、前記第五折罫線を正折りし第六折罫線を逆折りすることによって、前記保持部が前記底部の上方に隙間を空けて対面する緩衝仕切り付包装用箱である。

【０００８】

前記外箱体を組み立てた状態で、前記第二仕切部の裏面が前記第一仕切部の裏面に糊付され、前記第二支持部の裏面が前記第一支持部又は前記連結部の裏面に糊付けされ、前記第一折罫線が正折りされ、前記第二支持部の表面が前記正面板の裏面に糊付されて、前記外箱体の内側に前記緩衝用仕切り部が折り畳まれて位置するものである。

【０００９】

前記底部形成板には、前記第一仕切部の他方の端部であって前記外箱体の底蓋側から前記連接方向と直角に延設された脚部が設けられ、前記緩衝用仕切り部は、折り畳み状態から収容物を収容可能に開いた状態で、前記外箱体の側面との間に説明書を収容可能な隙間を形成可能に設けられている。

【発明の効果】

【００１０】

本発明の緩衝仕切り付包装用箱は、収容物の胴部側面が、保持部形成板の透孔の内周縁によって全ての方向で緩衝的に保持されるとともに、収容物の底面が、底部形成板の底部によって支持されるので、外側筒状体の外周面のどの方向から衝撃が加わっても、保持部及び底部が衝撃を吸収することができ、収容物に大きな衝撃が伝わらない。

【００１１】

また、この緩衝仕切り付包装用箱は、ブランクシートから打ち抜かれた一枚の箱体形成片で構成できるので、部材の管理が容易である。さらに、組み立ては、箱体形成片を折り曲げて糊付けした後、折り畳まれている状態を引き起こして外箱体を形成する動作と、第一仕切部及び第二仕切部を底蓋の方向押し下げて保持部と底部を倒す動作の２つの動作を行うだけでよいので作業効率がよい。

【図面の簡単な説明】

【００１２】

【図１】この発明の緩衝仕切り付包装用箱の一実施形態の外観を示す斜視図である。
【図２】この実施形態の緩衝仕切り付包装用箱の展開した箱体形成片を裏面から見た平面図である。
【図３】この実施形態の緩衝仕切り付包装用箱の組み立て方法を説明する平面図である。
【図４】この実施形態の緩衝仕切り付包装用箱の組み立て方法を説明する平面図である。
【図５】この実施形態の緩衝仕切り付包装用箱の組み立て方法を説明する平面図である。
【図６】この実施形態の緩衝仕切り付包装用箱の組み立て方法を説明する平面図である。
【図７】この実施形態の緩衝仕切り付包装用箱の組み立て方法を説明する平面図である。
【図８】この実施形態の緩衝仕切り付包装用箱の組み立て方法を説明する平面図である。
【図９】この実施形態の緩衝仕切り付包装用箱の組み立て方法を説明する断面図（ａ），（ｂ）である。
【発明を実施するための形態】
【００１３】
以下、この発明の緩衝仕切り付包装用箱の一実施形態について、図面に基づいて説明する。この実施形態の緩衝仕切り付包装用箱１０は、厚紙等のブランクシートから一体的に打ち抜かれた箱体形成片１２を折り曲げて糊付けし、２アクションで組み立て可能に形成された箱体である。組み立てられた緩衝仕切り付包装用箱１０は、図１に示すように、略矩形で縦長の外箱体Ｓ１を有し、その内側に所定の緩衝用仕切り部Ｓ３が設けられ、ガラス瓶等のように衝撃に弱い円筒状の収容物Ｗを緩衝的に保持する構造を備えている。
【００１４】
図２は、箱体形成片１２を裏面から見た展開図である。箱体形成片１２は、糊付片１４から順に、糊付片１４、第一側面板１６、背面板１８、第二側面板２０、正面板２２が互いに平行に連接して形成され、互いに平行な折罫線２３，２４，２６，２８で各々区切られている。糊付片１４、第一側面板１６、背面板１８、第二側面板２０及び正面板２２は、連接する幅方向がほぼ同じ長さであり、連接方向は、第一側面板１６及び第二側面板２０がほぼ等しく短く、糊付片１４、背面板１８及び正面板２２がほぼ等しい長さになっている。
【００１５】
背面板１８の、上記連接方向に対して直角な一端部（図２における右側の端部）に、組み立て状態で上蓋となる上蓋片３０と差込片３２とが順に連接され、各々折罫線３４，３６で区切られている。上蓋片３０の折罫線３４から折罫線３６までの長さは、第一、第二側面板１６，２０の連接方向長さにほぼ等しく、差込片３２の折罫線３６から先端までの長さは、上蓋片３０の上記長さの１／５程度に設けられている。
【００１６】
背面板１８の折罫線３４と反対側の端部には、組み立て状態で底蓋となる第一底蓋片３８が折罫線４０で区切られて設けられている。第一底蓋片３８の折罫線４０から折罫線４０に対して平行な端部３８ａまでの長さは、第一、第二側面板１６，２０の連接方向長さの１／２の幅に設けられている。そして、端部３８ａの中心から第二側面板２０側の部分は、端部３８ａよりも外側に幅広に形成された差込片４２となる。また第一底蓋片５６の第一側面板１６近傍には、三角形の糊付片４４が折罫線４６で区切られて設けられ、折罫線４６は折罫線４０に対して鋭角で交差する方向に設けられている
第一側面板１６の、背面板１８の折罫線３４に隣接する端部には、台形状のフラップ４８が折罫線５０で区切られて設けられている。また、第一側面板１６の折罫線５０と反対側の端部には、三角状のフラップ５２が折罫線５４で区切られて設けられている。
【００１７】
第二側面板２０の、背面板１８の折罫線３４に隣接する端部には、フラップ４８とほぼ同形のフラップ５６が折罫線５８で区切られて設けられている。また、第二側面板２０の折罫線５８と反対側の端部には、フラップ５２とほぼ同形のフラップ６０が折罫線６２で区切られて設けられている。
【００１８】

正面板２２の、第二側面板２０の折罫線６２と隣接する端部には、組み立て状態で底蓋となる第二底蓋片６４が折罫線６６で区切られて設けられている。第二底蓋片６４の折罫線６６から折罫線６６に対して平行な端部６４ａまでの長さは、第一、第二側面板１６，２０の連接方向長さの１／２の幅に設けられている。そして、端部６４ａの中心からフラップ６０と反対側の部分は、端部６４ａよりも外側に幅広に形成された差込片６８となる。また第二底蓋片６４のフラップ６０近傍には、三角形の糊付片６９が折罫線７０で区切られて設けられ、折罫線７０は折罫線６６に対して鋭角で交差する方向に設けられている。

【００１９】

さらに、正面板２２の連接方向の端部に、緩衝用仕切り部Ｓ３を構成する底部形成板７２、保持部形成板７４が順に連接されている。底部形成板７２には、正面板２２の底蓋側の端部から上記連接方向に延設された連結部７６が、正面板２２との境界を第一折罫線７８で区切られて設けられている。連結部７６の底蓋側の端部に、幅狭の第一支持部７９が上記連接方向に延設されている。第一支持部７９の上蓋側の端部に、上記連接方向と直角に延設された底部８０が、第一支持部７９との境界を第二折罫線８２で区切られて設けられている。底部８０の上蓋側の端部から上記連接方向と直角に第一仕切部８４が延設され、底部８０との境界を第三折罫線８６で区切られて設けられている。第一仕切部８４の底蓋側の領域の幅は、第三折罫線８６の長さよりも長く、上蓋側の領域の幅は、正面板２２側に台形状に突出部８４ａが突出している分さらに幅広になっている。また、第一仕切部８４の底蓋側の端部であって第三折罫線８６の両端部分に、上記連接方向と直角に一対の脚部８８が延設されている。ここでは、底部８０近傍に略Ｌ字状の切り込み８８ａを入れることによって脚部８８が設けられている。また、底部８０が連結部７６に隣接する部分は、切り込み９０によって区切られている。

【００２０】

保持部形成板７４には、第一支持部７９の上記連接方向の端部に延設された第二支持部９２が、第一支持部７９との境界を第四折罫線９４で区切られて設けられている。第二支持部９２の上蓋側の端部に、上記前記連接方向と直角に延設された保持部９６が、第二支持部９２との境界を第五折罫線９８で区切られて設けられている。第五折罫線９８の位置は、第二折罫線８２よりも上蓋側の位置にある。また、保持部９６の内側領域に、収容物Ｗの胴部外径よりも僅かに大きな透孔９６ａが形成されている。保持部９６の上記上蓋側の端部に、上記連接方向と直角に延設された第二仕切部９９が、保持部９６との境界を第六折罫線１００で区切られて設けられている。第五折罫線９８と第六折罫線１００との間隔は、第二折罫線８２と第三折罫線８６との間隔とほぼ等しい。また、第二仕切部９９は、第一仕切部８４と隣接する端部が第一仕切部８４と連続しており、その境界が、第四折罫線９４の延長線上にある第七折罫線１０２で区切られている。また、ここでは、第二支持部９２及び保持部９６が底部形成板７２に隣接する部分は、切り込み１０４によって区切られている。

【００２１】

次に、緩衝仕切り付包装用箱１０の組み立て方法の一例について、図２～図９に基づいて説明する。ここで、図２～図８は箱体形成片１２の裏面を見たものであり、以下、箱体形成片１２の表面が凸になる折り方を正折り、そして裏面が凸になる折り方を逆折りと称する。

【００２２】

まず、図３に示すように、連結部７６の裏面に糊１０６を、第一仕切部８４の突出部８４ａの裏面に糊１０８をそれぞれ塗布し、図４に示すように、第四、第七折罫線９４，１０２を正折りする。これにより、連結部７６の裏面が第二支持部９２の裏面に糊付され、突出部８４ａの裏面が第二仕切部９９の裏面に糊付される。次に、図４に示すように、第二支持部９２の第四折罫線９４寄りの部分の表面に糊１１０を塗布し、図５に示すように、第一折罫線７８を正折りする。これにより、第二支持部９２の表面が正面板２２の裏面に糊付される。次に、図６に示すように、折罫線４０，５４，６２，６６を正折りし、さ

らに、糊付片４４の折罫線４６と糊付片６９の折罫線７０をそれぞれ逆折りする。そして、糊付片６９の裏面に糊１１２を塗布し、図７に示すように、折罫線２８を正折りする。これにより、糊付片６９の裏面がフラップ６０の表面に糊付される。次に、図７に示すように、糊付片４４の裏面に糊１１４を、糊付片１４の裏面に糊１１６をそれぞれ塗布し、図８に示すように、折罫線２４を正折りする。これにより、糊付片４４の裏面が、フラップ５２の表面に糊付され、糊付片１４の裏面が正面板２２の表面に糊付される。このようにして箱体形成片１２は折り畳み状態となり、この状態で出荷される。

【００２３】

次に、収容物を収容し包装する工場等において立体的形状に組み立てる。まず、折罫線２３，２６を各々９０度に正折りし、糊付片１４、第一側面板１６、背面板１８、第二側面板２０及び正面板２２を四角形の外側筒状体Ｓ１にする（以下、第一の動作と称す）。すると、第一底蓋片３８は背面板１８からフラップ５２とともに引き起こされて折罫線４０で直角に正折りされ、同時に第二底蓋片６４は正面板２２からフラップ６０と共に引き起こされて折罫線６６で直角に正折りされる。さらに第一底蓋片３８の差込片４２が第二底蓋片６４の端部６４ａの裏面に差し込まれ、第二底蓋片６４の差込片６８が第一底蓋片３８の端部３８ａの裏面に差し込まれ、互いに確実に係止されて底蓋を形成する。

【００２４】

このとき、底部形成板７２と保持部形成板７４は、図９（ａ）に示すように、平坦な状態で正面板２２の内側に重なるように位置し、第一、第二仕切部８４，９９の端部が外側筒状体Ｓ１の上蓋側の開口から突出している。なお、図９の模式図では、第一、第二底蓋片３８，６４等が重なり合って構成されている底蓋を底蓋１１６で表わし、外側筒状体Ｓ１の底蓋１１６と反対側の開口に設けられている上蓋片３０及びフラップ４８，５６は省略してある。

【００２５】

第一の動作が終わると、次に、緩衝用仕切り部Ｓ３の第一、第二仕切部８４，９９の端部を指で摘み、図９（ｂ）に示すように、背面板１８側に寄せるようにして底蓋１１６の方向に押し込む（以下、第二の動作と称す）。すると、第一支持部７９の第二折罫線８２が逆折りされ、第一仕切部８４の第三折罫線８６が正折りされて底部８０が倒れ、脚部８８の先端が底蓋１１６に当接される。その結果、底部８０が、第一支持部７９と脚部８８とで支持され、底蓋１１６の上方に隙間を空けてほぼ水平に保持される。同時に、第二支持部９２の第五折罫線９８が正折りされ、第二仕切部９９の第六折罫線１００が逆折りされて保持部９６も倒れる。その結果、保持部９６が、第二支持部９２と第二仕切部９９によって支持され、底部８０の上方にほぼ水平に保持される。

【００２６】

次に、円筒状の収容物Ｗを、上蓋側から保持部９６の透孔９６ａ内に挿通する。収容物Ｗは、底面が底部８０上に支持され、胴部側面のほぼ中央が保持部９６の透孔９６ａの内周縁に保持される。

【００２７】

また、緩衝仕切り付包装用箱１０には、図９（ｂ）に示すように、背面板１８と第一仕切部８４との間に、取扱説明書などを折り畳んで収納する隙間Ｓ２が設けられている。取扱説明書は、収容物Ｗを収納した後で隙間Ｓ２に差し込むのが一般的である。しかし、隙間Ｓ２が比較的狭く設計されている場合は差し込みにくいので、例えば、上記第一の動作の後、背面板１８と第一仕切部８４との隙間が広くなっている状態で取扱説明書を差し込み、その後で上記第二の動作を行うようすれば、取扱説明書を容易に収納することができる。

【００２８】

そして、折罫線５０，５８を各々９０度に正折りしてフラップ４８，５６を倒し、さらに折罫線３４，３６を各々９０度に正折りし、差込片３２を正面板２２の裏面側に差し込み、上蓋片３０で外側筒状体Ｓ１の上方開口部を閉鎖する。

【００２９】

以上説明したように、緩衝仕切り付包装用箱１０は、第一側面板１６、背面板１８、第二側面板２０、正面板２２及び糊付片１４で構成された外側筒状体Ｓ１の内側に、底部形成板７２及び保持部形成板７４によって緩衝用仕切り部Ｓ３が形成される。そして、収容物Ｗは、自身の胴部側面が保持部９６の透孔９６ａの内周縁によって全ての方向で緩衝的に保持され、自身の底面が底蓋の上方に隙間を空けて設けられる底部８０によって支持されるので、外側筒状体Ｓ１の外周面のどの方向から衝撃が加わっても、保持部９６及び底部８０が衝撃を吸収することができ、収容物Ｗに大きな衝撃が伝わらない。

【００３０】

また、ブランクシートから打ち抜かれた１枚の箱体形成片１２で構成されているので、部材の管理が容易である。また、組み立ては、箱体形成片１２を折り曲げて糊付けした後、折り畳まれている状態を引き起こして外側筒状体Ｓ１を形成する第一の動作と、第一、第二仕切部８４，９９を摘んで底蓋の方向に押し下げて保持部９６と底部８０を倒す第二の動作の２アクションで行われるので、非常に作業効率がよい。

【００３１】

なお、この発明は、上記実施形態に限定されるものではなく、収容物の外形に応じて各部の形状を自由に変更することができる。例えば、胴部側面の外径が同じで背の高い収容物を包装する場合、外側筒状体、第一仕切部及び第二仕切部を上蓋側に長くし、さらに、第五折罫線及び第六折罫線を、間隔そのままで上蓋側に寄せて設ければよい。そうすれば、底部と保持部との間隔が広くなり、背の高い収容物であっても、胴部側面の中央に保持部を設けることができる。また、収容物が断面四角形又は多角形の筒状体の場合は、保持部の透孔の形状を筒状体の形状に合わせて変更すれば、収容物の胴部側面を適正に保持することができる。

【００３２】

また、上蓋及び底蓋の構成は自由であり、例えば、上記実施形態の上蓋片と差込片、及び２枚のフラップで成る上蓋の構成を底蓋に適用してもよい。また、周知の改ざん防止手段や開封容易化手段が設けられた上蓋及び下蓋に変更してもよい。

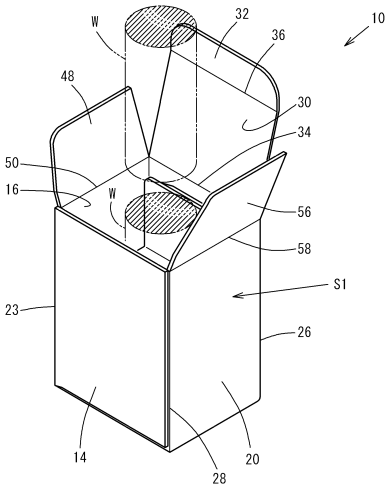
【符号の説明】

【００３３】

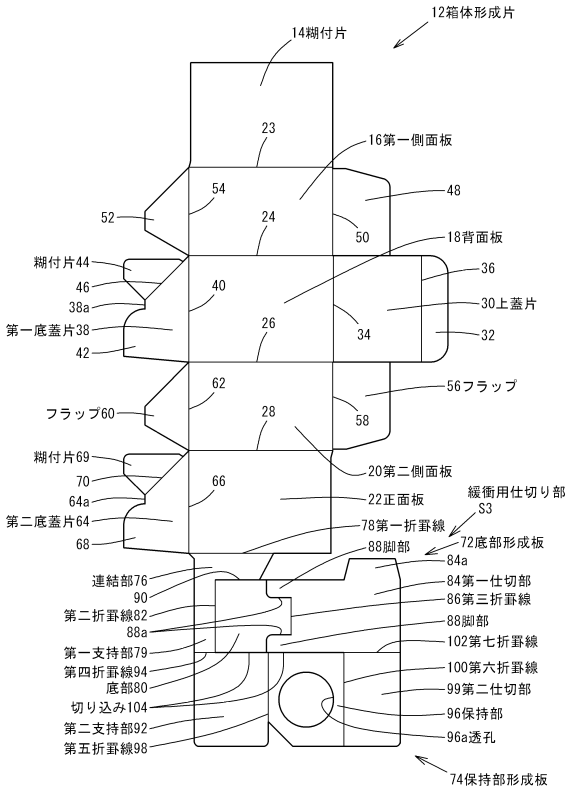
１０　緩衝仕切り付包装用箱
１２　箱体形成片
１４　糊付片
１６　第一側面板
１８　背面板
２０　第二側面板
２２　正面板
３０　上蓋片
３８　第一底蓋片
４８，５２，５６，６０　フラップ
６４　第二底蓋片
７２　底部形成板
７４　保持部形成板
７６　連結部
７８　第一折罫線
７９　第一支持部
８０　底部
８２　第二折罫線
８４　第一仕切部
８６　第三折罫線
８８　脚部
９２　第二支持部

９４　第四折罫線
９６　保持部
９６ａ　透孔
９８　第五折罫線
９９　第二仕切部
１００　第六折罫線
１０２　第七折罫線
１０６，１０８，１１０，１１２，１１４，１１６　糊
Ｓ１　外箱体
Ｓ２　隙間
Ｓ３　緩衝用仕切り部

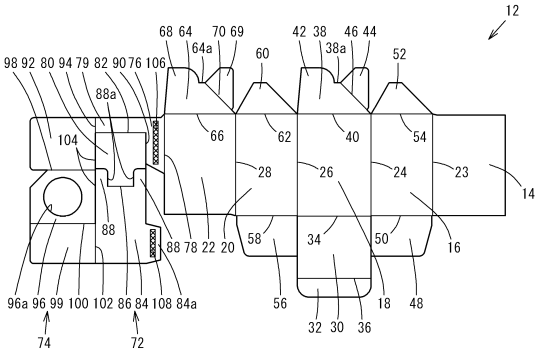
【図１】



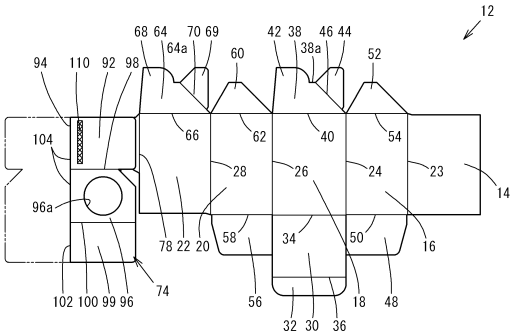
【図２】



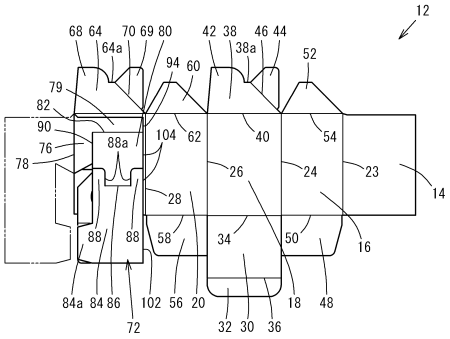
【図３】



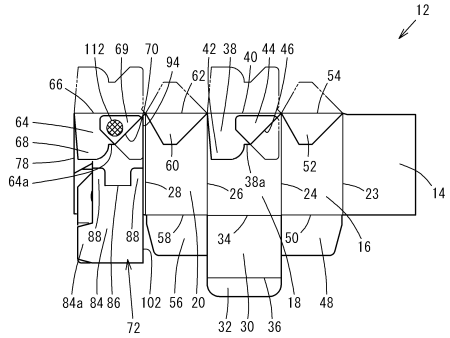
【図４】



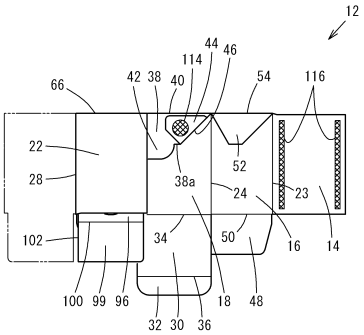
【図５】



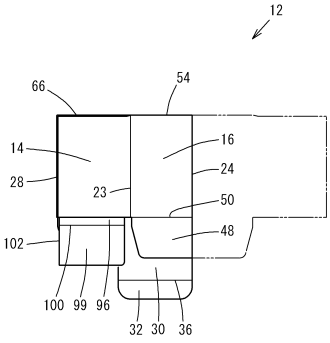
【図６】



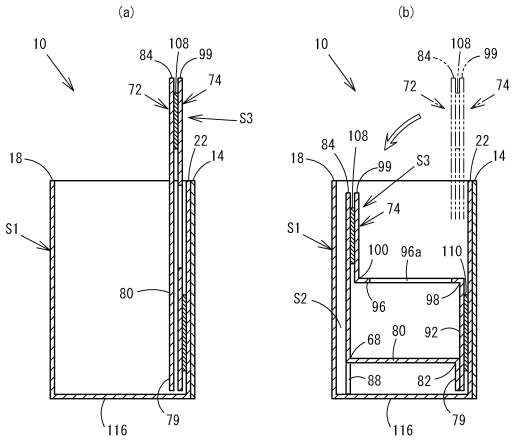
【図７】



【図８】



【図９】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開２００２－１２０８２４（ＪＰ，Ａ）
実公昭３７－０３２０９３（ＪＰ，Ｙ１）
特開２０１０－００１０３９（ＪＰ，Ａ）
特開２００３－２６７３５１（ＪＰ，Ａ）
実開昭５９－１８３８１９（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ６５Ｄ　　５／５０